

## 論 67

古地図を用いた雑司ヶ谷領域の変遷に関する研究  
——境界に影響する要素についての考察——

20719018

古賀碧

指導者

葉袋奈美子 准教授

雑司ヶ谷 地名	領域 境界	古地図
------------	----------	-----

## 1. はじめに

町は、災害に備えた安全性や交通の利便性の向上など様々な変化を求められる。これは、町が人々の生活と密接に関わっている事を考えれば当然である。また、昨今では緊密な地域コミュニティが災害時や高齢者の社会的孤立などの問題において重要な役割を果たすと注目され<sup>注1)</sup>、都市計画の面だけでなく地域社会といった面においても町の変化が求められる。

今後の町の変化を図るうえで、町の領域がどのように変化してきたのかを確認することは重要である。同時に、町に帰属する住民が町の領域をどのように捉えているかを確認することも重要な意味を持つと考えられ、領域のイメージとその生成のしくみに関する先行研究<sup>1)</sup>もある。

本研究では、古地図<sup>注2)</sup>や文献<sup>注3)</sup>を用いて地名に基づいた領域の変遷を確認し、領域の境界の位置決定に影響したと考えられる要素について考察する。そこで、かつては江戸郊外に位置し、現在においては近年の都心回帰の中で新たに居住者が増加している雑司ヶ谷地域を取り上げる。対象領域は豊島区南部および文京区西部でその時々においてゾウシガヤという地名が確認される領域とし、これを「雑司ヶ谷領域」と定義する。併せて、江戸時代以降に「雑司ヶ谷領域」となったことのある領域を一括して「集成・雑司ヶ谷領域」と定義する。

なお、地名に着目した都市空間に関する既往研究には、地名を呼称する媒体を通じた古地名の残存に関する研究<sup>2)</sup>や、地名およびその意味内容を基に地名と空間との関連を調べた研究<sup>1)</sup>などがある。しかし、本研究のように地名の拡がりそのものの変遷について研究したものや、古地図を基に境界の要素を考察した先行研究はみられない。

## 2. 「雑司ヶ谷領域」の変遷について

江戸時代より前の「雑司ヶ谷領域」範囲は、詳細が記載された古地図が取得できなかつたため不明である。

江戸時代における「雑司ヶ谷領域」は、朱引および墨引内に位置する農村だった<sup>注4)</sup>。領域内には法明寺(図1-A)や鬼子母神(図1-B)を始めとする寺社の他にも御鷹部屋や御用屋敷などの施設があり、領域の東には護国寺(図1-C)が隣接する<sup>3)</sup>など、農村としてよりも幕府の施設や行楽地として注目度の高い土地だった。領域は現在よ

りも北・西方面に大きく拡がっており、1834(天保5)年に現在の目白三・四丁目近辺に雑司ヶ谷感應寺が建立されて以降は、感應寺が取り潰されて<sup>注5)</sup>からも当該地域にゾウシガヤの地名が残り(図1-D)、西方における「雑司ヶ谷領域」の拡がりに影響を与えた。

明治年間では、1869(明治2)年からの五年間で六回も朱引外の区分が変更され、これらの変化を経てそれまで御鷹部屋・御用屋敷・寺社地・修験屋敷だった区画が「雑司ヶ谷領域」に組み込まれた<sup>4)</sup>。また、1878(明治11)年には郡区町村編制法、1889(明治22)年には市町村制が施行され、「雑司ヶ谷領域」は頻繁に変化を繰り返していった。

大正年間では「雑司ヶ谷領域」に大きな変化はない。だが、1923(大正12)年に発生した関東大震災において、比較的被害の小さかった雑司ヶ谷が火災により焼け出された人々の受け皿となり住民増加を招いた事が、現在に続く木造密集市街地の形成に大きく影響したと考えられる。

また、明治年間から大正年間にかけて、領域内では現在の目白通り(図1-E)や鬼子母神道(図1-F)沿道において市街が発展するといった変化が見られた。

昭和年間では、1932(昭和7)年に区制が施行されて豊島区内の雑司ヶ谷は一〜七丁目に整理された。このとき、同年に整備されたグリーン大通り/日の出通り(図1-G)を境に切り離されるように北部の区画が「雑司ヶ谷領域」から外れ、通りの南側の沿道や感應寺跡の区画も領域から外れた。その後、第二次世界大戦の空襲で火災の被害を受け、雑司ヶ谷では戦後すぐにバラックが建ち多くの住民が居住するようになるが、翌年には戦災復興区画整理事業の計画の中で区画整理予定地と定められた。だが、池袋東側で基盤が整う一方で雑司ヶ谷の中心地での整備は進まず、戦前に整った基盤を基にした発展を迎えた。1960(昭和35)年になると町名と町区域の変更が行われ、現在の東池袋四・南池袋一・二丁目が「雑司ヶ谷領域」から外れる。1964(昭和39)年には住居表示が施行されて明治通り(図1-H)以西からゾウシガヤの地名が消え、「雑司ヶ谷領域」は雑司が谷一〜三丁目(図1)まで縮小した。

平成期における領域の変化はない。だが、「雑司ヶ谷領域」外にある都電雑司ヶ谷駅(図1-I)や雑司ヶ谷霊園(図1-J)などの施設にゾウシガヤの名称があり、領域が現在

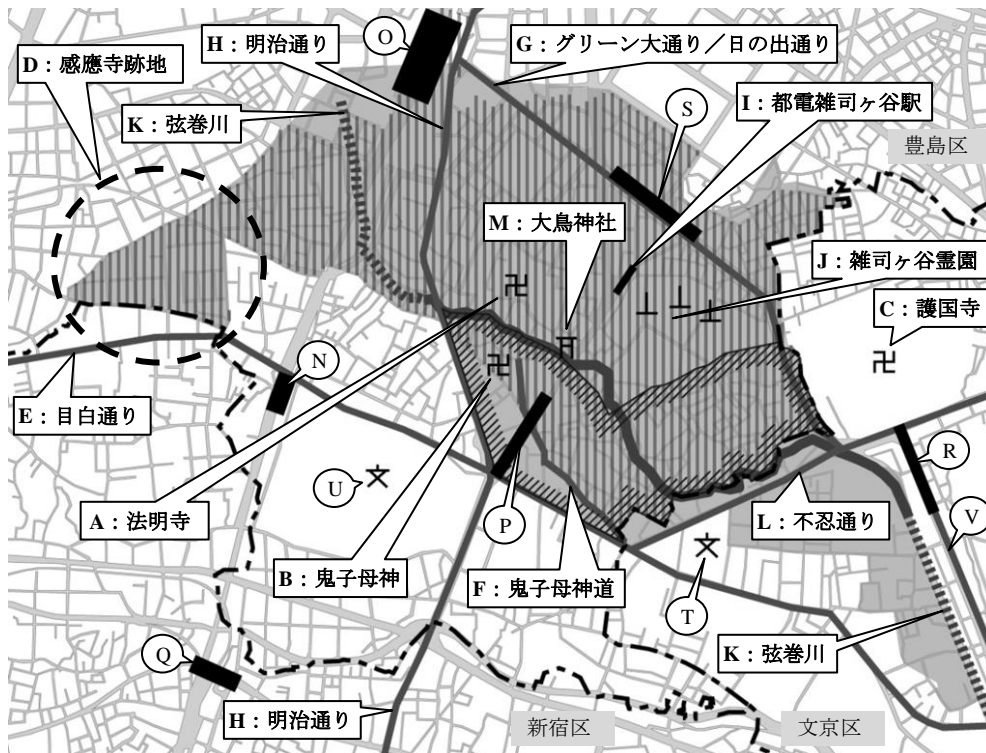


図1 [集成・雑司ヶ谷領域]

【凡例】

- [集成・雑司ヶ谷領域]
- 現在の [雑司ヶ谷領域]
- 大鳥神社の氏子区域
- 弦巻川流路
- 弦巻川流路 (推定)

- N: 目白駅
- O: 池袋駅
- P: 雑司ヶ谷駅
- Q: 高田馬場駅
- R: 護国寺駅
- S: 東池袋駅
- T: 日本女子大学
- U: 学習院
- V: 音羽通り

以上の拡がりを見せていた名残が確認できる。

### 3. 領域の決定に影響する要素の考察

ここで、[雑司ヶ谷領域]の境界の決定に影響を及ぼしたと考えられる要素について考察する。

#### 3-1 河川

[集成・雑司ヶ谷領域]の北西部から流出する弦巻川(図1-K)は、暗渠化され現在では視認できない川だが、護国寺西交差点から目白台2丁目交差点傍までの豊島・文京区の区界(図1)が流路と一致している。

#### 3-2 道路

広幅員の明治通りや不忍通り(図1-L)が[雑司ヶ谷領域]の境界と一致したことがあるが、幅員の狭い鬼子母神道にも注目したい。この道は住居表示が施行されるまで変更がなかった南東の境界と一致している。このことから幅員が狭いこの参道が地域住民に重要な意味を持った境界であった可能性も考えられる。

#### 3-3 宗教施設

[雑司ヶ谷領域]東部の境界が領域に隣接する護国寺との境界線と一致したまま変化がない事や感應寺が無くなってもなお土地に雑司ヶ谷の名称が残った事などから、宗教施設が町の領域に影響を与える事が推測できる。また、大鳥神社(図1-M)の氏子区域<sup>5)</sup>と[集成・雑司ヶ谷領域]とを比較すると(図1)、文京区に当たる区画と住居表示施行によって[雑司ヶ谷領域]に組み込まれた区画以外はだまかに一致している事から、宗教的なコミュニティ領域と[雑司ヶ谷領域]に何らかの関連性が生じて

いる事も推察できる。

### 4. おわりに

本研究により、[雑司ヶ谷領域]が江戸期以降に繰り返した領域を変化させていた事、また、現在の[雑司ヶ谷領域]はそれまでの領域よりも著しく縮小した形であることが確認できた。加えて、地図上で領域の変遷を追うことにより、河川・道路・宗教施設といった要素が[雑司ヶ谷領域]の境界の決定に影響を及ぼしたと考察するに至った。

#### 注釈

- 注1) 「災害対応能力と地域コミュニティの基盤・機能に関する検討会 報告書」  
[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h22/2203/220330\\_16houdou/02\\_houkokusyo.pdf](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h22/2203/220330_16houdou/02_houkokusyo.pdf), (2014.12.17)、  
「高齢者の社会的孤立を防止する対策の必要性」  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000217416.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000217416.pdf), (2014.12.17)
- 注2) 古地図の収集は主に「国際日本文化研究センターデータベース」(<http://db.nichibun.ac.jp/ja/>)や「東京国立博物館情報アーカイブ」(<http://webarchives.tnm.jp/pages/oldmaps/index.html>)を利用した
- 注3) 豊島区史編纂委員会:「豊島区史 地図編(下)」, 東京都豊島区, 1974年  
文京区役所:「文京区史 巻三」, 文京区役所, 1981年  
東京都(都政史料館):「東京府志料 4 巻之八十九—巻之一百六」, 東京都(都政史料館), 1961年 などの文献を活用した。
- 注4) 御府内であり町奉行所支配の区画内に位置づけられたエリアにあたる。
- 注5) 雑司ヶ谷感應寺は1841(天保12)年に取り潰しとなった。

#### 参考文献

- 1) 橋本健一:「不均質空間における景観形成に関する研究」, 東京工業大学, 1998年
- 2) 原本太郎:「歴史的地名と現代におけるその地名呼称媒体に関する研究—東京区部を対象として—」, 東京工業大学, 2012年
- 3) 豊島区立郷土資料館(復元):「武蔵国豊島郡雑司ヶ谷村繪圖(1772年)」, 豊島区教育委員会, 1992年
- 4) 豊島区史編纂委員会:「豊島区史地図編(下)」, 東京都豊島区, pp.101-121, 1974年
- 5) 財団法人豊島区街づくり公社:「知れば知るほど豊島がおもしろい」, 宝島社, 1994年